

国立国語研究所学術情報リポジトリ

Difficulties in Reading a Hotel Search Site for Chinese Learners of Elementary Japanese

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-10-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 桑原, 陽子, 山口, 美佳, KUWABARA, Yoko, YAMAGUCHI, Mika メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00000545

中国語系初級日本語学習者がホテル検索サイトを読むときの困難点

桑原陽子^a 山口美佳^b

^a福井大学／国立国語研究所 共同研究員

^bエモリー大学

要旨

本研究では、中国語系初級日本語学習者が日本語で書かれたホテル検索サイトの情報をどのように読み、その過程にどのような困難点があるのかを明らかにするために、中国語系初級日本語学習者 11 名にホテル検索サイトの 2 つのホテル情報を読んでもらい、その読解過程を学習者による内省報告とインタビューによって調査した。

その結果、次の (i) から (iii) のようなことが明らかになった。

- (i) 中国語系初級日本語学習者は、ホテル検索サイト内で出現頻度の高い、「ツイン」「フロント」のようなカタカナ表現や、ホテル検索サイトに特徴的な「貸し切り風呂」などの表現を理解するのが困難である。
- (ii) 中国語系初級日本語学習者は、漢字に頼りすぎる傾向があり、ひらがなで書かれた「ない」などの活用語尾、「のみ」などの助詞を見落として正しく意味が理解できないことが多い。また、漢字の意味だけをつなぎ合わせて、本来の意味を無視した、勝手な解釈をすることもある。
- (iii) 中国語系初級日本語学習者は、辞書サイトや翻訳サイトなどの補助ツールを積極的に使用するが、それらのサイトは必ずしも正しい意味を提示せず誤訳も多い。そのため、辞書・翻訳サイトを使用した結果をうまく利用する技術が必要である*。

キーワード：中国語系初級日本語学習者、ホテル検索、読解、カタカナ語、補助ツール

1. 本研究の目的

本研究の目的は、中国語を母語とする初級日本語学習者（以後、「中国語系初級学習者」とする）が日本語で書かれた文章から必要な情報を得ようとするとき、どのような点が難しいのかを明らかにすることである。中国語系初級学習者は、文法の知識が不十分でも母語の漢字の知識を手がかりに情報を得ることができる。そのため、読む目的がはっきりしており、読みとるべき情報が明確な場合は、初級レベルの文法知識では読むのが難しいと思われる生の^{なま}素材からでも、かなりうまく必要な情報を得ることができると予想される。しかし、その過程でどのような知識が活用され、情報を読みとる上でどのような難しさがあるのかを具体的に知るためには、学習者に日本語で書かれた素材を実際に読んでもらって、その過程を観察する必要がある。

日本語で書かれた生の^{なま}素材にはさまざまなものがあるが、本研究はホテル検索サイトのホテル

* 本論文は、次の発表をもとに書き改めたものである。

桑原陽子「初級日本語学習者の読解困難点・読解技術」、国立国語研究所共同研究「コミュニケーションのための言語と教育の研究」研究発表会、しいのき迎賓館（金沢）、2014年2月15日。

本研究は、国立国語研究所共同研究プロジェクト「コミュニケーションのための言語と教育の研究」（プロジェクトリーダー：野田尚史）と、科学研究費補助金基盤研究（B）23320107「実践的な読解教育実現のための日本語学習者の読解困難点・読解技術の実証的研究」（研究代表者：野田尚史）の研究成果の一部である。

情報を材料にする。ホテル情報を材料にした理由は、次の (1) から (3) である。

- (1) ホテル検索サイトのホテル情報は、読む目的がはっきりしている。
- (2) ホテル検索サイトのホテル情報は、初級学習者も読まなければならない場合がある。
- (3) ホテル検索サイトのホテル情報はウェブ上にあるので、読むための補助ツールの利用が容易で、紙媒体の素材を読むときとは異なる読み方が行われる。

このうち(1)は、次のようなことである。母語話者でも非母語話者でもホテル検索サイトを使ってホテルを選ぶ人は多い。ホテル情報を読む目的は、いいホテルを選びよくないホテルを避けることで、読み手がサイトから読みとる情報はほとんど決まっている。たとえば、値段、アクセス、部屋の快適さ、食事などである。このようにホテル検索サイトを読む目的は誰にとってもはっきりしているため、そこから何を読みとるべきかがわかりやすい。また、日本語学習者が読みとるべき情報を適切に読みとれたかどうかについても判断しやすい。

(2) は、次のようなことである。初級学習者であっても日本国内のホテルを利用することがある。日本国内のホテルを探す場合、宿泊地によっては日本語のホテル検索サイトでしかホテルが探せないことがある。また、日本語のホテル検索サイトを使ったほうが情報が多く、いいホテルを選ぶことができるので、日本語のサイトを利用するメリットは大きい。一般に、各国のホテル検索サイトの機能は類似しているため、母語で読むことができるホテル検索サイトの利用経験があれば、初級学習者でも日本語のサイトを使おうとすることは十分考えられる。

最後に、(3) は次のようなことである。最近では、紙媒体だけでなく、ウェブサイトからさまざまな情報を入手する機会が増えている。ウェブサイトの情報を読む場合には、辞書サイトや翻訳サイトなど、読むための補助ツールを気軽に使うことができる。実際に学習者が補助ツールを使って読んでいる様子を観察することで、そのような補助ツールをどのように利用すれば効率的に情報を読みとることができるのか、補助ツールを使う上でどのような難しさがあるのかを知ることができる。

本研究では、中国語系初級学習者がホテル検索サイトのホテル情報をどのように読むのかを明らかにするために、ホテル検索サイト「Yahoo! トラベル」を材料に使用して読解過程の調査を行う。そして、次の (4) と (5) を分析する。

- (4) 中国語系初級学習者にとっては、どのような表現が意味を理解するのが難しいか。
- (5) 中国語系初級学習者は、どのような補助ツールを使ってウェブ上の生の^{なま}素材を読むか。また、その補助ツールを使う上で、どのような点が難しいか。

2. 調査方法

中国語系初級学習者がホテル情報をどう読み、どのような点が難しいのかを明らかにするために、インターネットに接続したパソコンでホテル検索サイトを読んでもらった。調査協力者、調査材料、調査方法、分析方法は、以下のとおりである。

2.1 調査協力者

調査協力者は、中国語系初級学習者 11 名である。そのうち 5 名はアメリカ国内の X 大学に留学し日本語を学んでいる大学生で、6 名は日本国内の Y 大学に在籍する留学生である。調査協力者の所属、日本語学習歴および日本滞在歴は表 1 のとおりである。全員、母語が中国語で、中国語の漢字の知識がある。学習者の日本語能力については特に厳密な判断基準は設けず、調査者が調査協力者から聞いた日本語学習歴や、調査協力者の調査時の日本語の学習状況などから、全員初級相当と判断した。

具体的には、アメリカ留学中の 5 名は調査時に『初級日本語 げんき I』（ジャパントイムズ）の 7 課を学習中で、日本留学中の 6 名は『みんなの日本語初級 II』（スリーエーネットワーク）の 40 課から 46 課あたりを学習中であった。したがって、アメリカ留学中の 5 名の日本語能力は初級前半レベルで、日本留学中の 6 名のは初級後半レベルと言える。

表 1 調査協力者（調査時）

調査協力者	所属	日本語学習歴	日本滞在歴
学習者 A	アメリカの X 大学	4 ヶ月	なし
学習者 B	アメリカの X 大学	4 ヶ月	1 ヶ月（中学生のとき）
学習者 C	アメリカの X 大学	4 ヶ月	数ヶ月（5 才のとき）
学習者 D	アメリカの X 大学	5 ヶ月	なし
学習者 E	アメリカの X 大学	13 ヶ月	なし
学習者 F	日本の Y 大学	来日前 2 ヶ月／来日後 4 ヶ月	4 ヶ月
学習者 G	日本の Y 大学	来日前 4 ヶ月／来日後 3 ヶ月	3 ヶ月
学習者 H	日本の Y 大学	来日前 4 ヶ月／来日後 3 ヶ月	3 ヶ月
学習者 I	日本の Y 大学	来日前 3 ヶ月／来日後 4 ヶ月	4 ヶ月
学習者 J	日本の Y 大学	来日前 6 ヶ月／来日後 4 ヶ月	4 ヶ月
学習者 K	日本の Y 大学	来日前 12 ヶ月／来日後 3 ヶ月	3 ヶ月

調査協力者のホテル検索サイトの利用経験は、表 2 のとおりである。調査協力者 11 名全員がホテル検索サイトを利用したことがあった。「日本語のサイトを利用したことがある」と答えたのは、学習者 G と学習者 K である。いずれも、来日直後にホテルに宿泊する必要があつて、日本語のホテル検索サイトを使用しており、その当時の日本語能力は初級前半レベルであったと推測される。このことから、初級学習者でも日本語のホテル検索サイトを使わなければならない状況があることがわかる。

表 2 ホテル検索サイトの利用経験者数

	まったく ない	日本語以外はあるが 日本語のサイトではない	日本語のサイトを 利用したことがある
ホテル検索サイトを利用した ことがあるか	0	9	2
ホテルのユーザーレビューを 読んだことがあるか	1	8	2

2.2 調査材料

調査材料は、ホテル検索サイト「Yahoo! トラベル」のトップページの検索画面と、次の2つのホテル情報である。URLは2014年6月現在のものである。

レンブランドイン西葛西

<http://domestic.hotel.travel.yahoo.co.jp/bin/hotelshisetsu?ken=13&darea=1303&tuki=2&hi=16&chaku=1&twin=1&rnum=1&pnum=2&chiku=4011&shisetsu=043&via=inform>

東横イン東西線西葛西

<http://domestic.hotel.travel.yahoo.co.jp/bin/hotelshisetsu?ken=13&darea=1303&tuki=2&hi=13&chaku=1&twin=1&rnum=1&pnum=2&chiku=4011&shisetsu=049&via=inform>

この2つのホテルを選んだ理由は、次の(6)から(8)のようなものである。

- (6) どちらも東京ディズニーランドに近いホテルで、東京ディズニーランドに遊びに行くために泊まるという実際にありそうな状況設定に合う。
- (7) この2つのホテルの価格はどちらも学生にとって手ごろで、「本当に泊まってもいい」と思える程度である。
- (8) どちらもビジネスホテル系列のホテルで、安心して泊まれる雰囲気があり、東京メトロ東西線西葛西駅から徒歩数分というよく似た条件のホテルである。

これらの理由は、ホテル検索サイトのホテル情報を読む状況について、調査協力者に現実的な状況として考えてもらいやすくするためのものである。

2.3 調査方法

調査は個別に行った。最初に、ホテル情報を読む状況、つまり、調査協力者がどういう目的でホテル情報を読もうとしているのかを口頭で説明した。この調査で設定している状況は、およそ(9)のとおりである。

- (9) 春休みに、友だちと2人で東京ディズニーランドに行きます。その友だちと一しょに泊まるホテルを予約したいと思っています。Yahoo! のホテル予約サイトでホテルを探します。

このようにホテル情報を読む状況を説明したあと、インターネットに接続しているパソコンを使って、「Yahoo! トラベル」の最初のページを見せた (<http://travel.yahoo.co.jp/>)。最初のページは、検索条件を入力するページで(図1)、さらに詳細な条件を設定できるページ(図2)に移動することができる。調査協力者には図1, 図2を見せて、それぞれ何が書かれているかについて聞いた。

そのあと、およそ(10)のように説明した。

クイック検索		*は入力必須項目です。	
国内	ホテル、旅館	宿泊日*	2013年11月 17日 <input type="checkbox"/> カレンダーから選ぶ
	国内ツアー ▶	宿泊数*	1泊
	航空券+宿泊 ▶	人数・室数*	2人 1室 (人数は1室あたりの人数)
	国内航空券 ▶	目的地*	-東京都 エリア: 指定しない
海外	海外ツアー ▶	<input type="button" value="検索"/> <input type="button" value="さらに詳しい条件で検索"/>	
	海外航空券 ▶		

図1 Yahoo! トラベルのトップページの検索画面

基本条件 *は入力必須項目です。	
目的地*	地方・都道府県: -東京都
	エリア: 指定しない
	詳細エリア: 指定しない
宿泊日*	2013年11月 17日 <input type="checkbox"/> カレンダーから選ぶ
宿泊数*	1泊
人数・部屋数*	2人 1室 (人数は1室あたりの人数)
部屋タイプ	<input type="checkbox"/> シングル <input type="checkbox"/> ツイン <input type="checkbox"/> ダブル <input type="checkbox"/> トリプル <input type="checkbox"/> 4ベッド <input type="checkbox"/> 스위트 <input type="checkbox"/> メゾネット <input type="checkbox"/> 和室 <input type="checkbox"/> 和洋室 <input type="checkbox"/> 特別室
食事条件	<input type="checkbox"/> 1泊2食付き <input type="checkbox"/> 1泊朝食付き <input type="checkbox"/> 食事なし
施設タイプ	<input type="checkbox"/> ホテル <input type="checkbox"/> 旅館 <input type="checkbox"/> ペンション <input type="checkbox"/> 民宿 <input type="checkbox"/> 貸し別荘 (貸し別荘の人数は3人以上に設定されている場合がありますので「人数・室数」の「人数」を3人以上にして検索してください)
ポイント	<input type="checkbox"/> もらえるプラン <input type="checkbox"/> 使えるプラン

図2 Yahoo! トラベルの詳細検索画面

(10) この予約サイトでホテルを探します。検索条件は、次のようにしました。

1. 宿泊地は東京ディズニーランドに近い「葛西」
2. 部屋のタイプはツイン
3. 宿泊日は2月13日木曜日で1泊だけ

この条件でホテルを探していたところ、友だちが次の2つのホテルを見つけて、あなたに

「この2つのホテルはどうだろうか」と聞いてきました。

レンブラントイン西葛西 4300円／人（朝食つき）

東横イン東西線西葛西 3990円／人（朝食つき）

このホテルの値段は、東京ディズニーランド周辺では安いほうです。この2つのホテルの情報を読んで、これらのホテルについてどう思うか、どちらがいいか考えてください。読むときは、ふだん自分がウェブサイトから情報を読みとるときと同じように読んでください。読みたいところは、どこでも自由に読んでいいです。

このような状況を想定して、ふだんウェブサイトから情報をとるときと同じように、読みたい順番に読みたいところだけを自由に読んでもらった。

調査では、ホテル情報を読みながら、自分が思ったことをできるだけ口に出して話してもらった。アメリカ留学中の5名には英語で話してもらい、日本留学中の6名には中国語で話してもらった。必要に応じて、調査者が学習者の発話の内容について質問した。英語で話してもらった5名は、調査者自身が英語で調査を行った。中国語で話してもらった6名の調査では、中国語の通訳者を依頼し、調査協力者の発話と調査者とのやりとりをすべて通訳してもらった。

調査の様子は、調査協力者の承諾を得てすべて録画した。調査にかかった時間は、1人あたりおよそ30分から1時間であった。調査は、2013年11月から2014年1月にかけて行われた。

2.4 分析方法

本研究では、日本語学習者に対するインタビュー調査で得られたデータの中から、次の(11)と(12)を分析の対象とした。

- (11) 理解するのが難しかった表現や読み誤った表現
- (12) 辞書サイト、翻訳サイトなどの補助ツールの使用

なお、本論文中に調査協力者の読みの過程や読み誤りの事例を記載する際に、どの学習者のデータかを示す場合は、表1の調査協力者のラベル「学習者A」から「学習者K」を（ ）付きで示す。

3. ホテル情報についての読みの困難点

ホテル情報が正しく読みとれなかった事例として、次の3つが目立った。第1に、アクセス、ホテルなどの外来語のカタカナ表現（以後、カタカナ表現とする）である。第2に、漢字で書かれた表現を重視し、ひらがな部分を無視したことによる読み誤りである。第3に、ホテルやホテル検索の知識が十分でないことが原因の読み誤りである。それぞれについてまとめる。

3.1 カタカナ表現

ホテル検索サイトは、サイト全体にカタカナ表現が多数使われている。学習者からは、「カタカナ語が難しい」「カタカナが多いから読みたくない」という発言が目立ち、カタカナ表現を見

ただで「わからない」と読み飛ばす事例も多かった。これは、中国語を母語とする日本語学習者はカタカナ語の習得に困難さを感じるという指摘（陣内 2008 等）と一致する。

たとえば、学習者が1人でも「意味がわからない」と答えたものには、(13)のようなものがあった。

- (13) シングル, ダブル, ツイン, スイート, フロント, サービス, ビジネス, ツアー, ユーザーレビュー, アクセス, ルート, エリア, パイキング, クレジットカード, アメニティ, シャンプー, コンディショナー, リンスインシャンプー & ボディソープ, コインランドリー, ドライヤー, ポット, ズボンプレスサー, インテリア, レジャー

これらの中には、たとえば (14) のように正しく発音できずその意味がわからなかったものが含まれる。

- (14) 「シングル」を「サンケル」と発音した。「ダブル」の「ダ」を「ガ」と読み、「ブル」は読み上げられなかった。(学習者 C)

(14) の事例のようにカタカナが正しく発音できなかったものは、初級前半レベルの学習者に多く見られた。一方、「シングル」「ダブル」「ベッド」を正しく発音できた学習者は、それぞれを発音の似ている英語単語、single, double, bed と結びつけて正しく意味を理解できている場合が多かった。カタカナ表現ともとの英語単語の音が近く意味が同義である場合、「ホテルの部屋のタイプ」ということがわかった上でカタカナを発音できれば、意味の理解は容易であったと予想される。

しかし、カタカナ表現を正しく発音できても、その意味がわからなかった例もあった。(15)(16) は、英語単語と結びつけようとして失敗した例である。

- (15) ツインは2人の部屋だと思う。英語の twin だと思うから。twin は英語で「双子」だから子供用ではないか。大人1人と子供1人用の部屋。(学習者 H)
- (16) 「アクセス」はたぶん address の意味かな？(学習者 K)

一方、(17)(18) は発音を間違った結果、別の英語単語と結びつけてしまった事例である。

- (17) レストラン情報の中の「パイキング」を「ハイキング」と発音し、「外で食べる」と誤解した。(学習者 H)
- (18) 「ベッド」を「ベット」と発音し、動物のペットのことだと考えた。(学習者 E)

ただし、このように何らかの英語単語と結びつけようとしたものは少数で、発音できたが「わからない」と答えたものが大半であった。これは、日本語のカタカナ表現は、そのもととなった英語などの外国語の単語と、音と意味とがほとんど同じであるものが少ないことによる。たとえば、田辺 (1990) は、和製英語 2191 語の形態を分析し、原語とほぼ同じ意味で通用する同義語は 330 語しかないことを明らかにしている。

また、(13) のカタカナ表現について、旧日本語能力試験を基準にした単語レベル判定をすると、

1 級レベルの 4 語 (ダブル, フロント, ビジネス, ポット), 2 級レベルの 2 語 (サービス, レジャー) 以外はすべて「級外」である。部屋のタイプを示す「シングル, ダブル, ツイン」のほか「フロント, バイキング, アクセス」などのホテル検索サイトでは高頻度と考えられる表現, 検索サイトの機能として重要な表現「エリア, ルート」など, 「ホテルの検索サイト」という特定の領域において高頻度で使用されるカタカナ表現は, とりわけ初級学習者にとっては日本語の語彙としてなじみがなく, 難しいものが多いことがわかる。これは, 中国語系学習者にとってカタカナ表現が難しいだけでなく, ホテル検索の領域で使われるカタカナ表現が難しいという二重の問題である。

3.2 漢字の重視とひらがなの軽視

初級学習者であっても, 漢字がわかることで簡単に情報が得られる場面もあった。たとえば, (19) のような記述から, ホテルのアクセス情報を得るのは難しくない。(19) については, 11 人中 10 人が調査中に言及しており, 全員正しく意味を理解していることが確認できている。

(19) 地下鉄東京メトロ東西線西葛西駅北出口→徒歩約 1 分

11 人のうち 8 人は「アクセスがよいこと」をホテル選びの重要な決め手にしていたので, (19) のような具体的なアクセス情報が簡単に得られたことは, 「重要な情報を読みとれた」という達成感につながったはずである。また, ユーザーレビューの 1 文について, (20) のように漢字だけを拾って意味推測に成功した事例もあった。

(20) 「夜中 31 日から明け 1 日遅くにディズニーから帰ってくる客の笑い声や話し声は筒抜けでした。」というレビューに対して, 「遅」「客」「笑」「話」から「夜遅くに客の笑い声や話し声がうるさかった」と推測。(学習者 C)

しかし, その一方で, 同じ学習者が, 漢字から得られる情報だけをもとに誤った解釈をしている事例もあった。たとえば, (21) のような事例である。

(21) 「間違っ喫煙ルームを予約してしまったが, 部屋は全然タバコ臭くなく快適でした。」に対して, 「喫煙したあと, 部屋のにおいがすぐに消えた。」と推測。(学習者 C)

これは, レビュー中の漢字「喫煙」, 「部屋」, 「全然」の「全」(「全体」と解釈), 「臭」, 「快適」の「快」(中国語の意味である「速い」と解釈)をつなぎあわせた結果である。このように, ユーザーレビューの中の漢字を拾ってまったく的外れな解釈をした例には, (22) のようなものもあった。

(22) 「禁煙ルームの予約が取れず, 喫煙ルームの利用だったので, 匂いなど心配していましたが, 気になるほどでなく, 安心しました。」の「気」は condition か environment で, 「安心」は security だから, ホテル周辺は安全だということが書いてあると思う。(学習者 A)

(21) (22) は, 初級前半の学習者の事例である。初級後半の学習者の事例にも, 漢字部分だけ

を見てひらがな表現を無視した結果、まったく異なる意味に解釈している例は散見された。たとえば、(23) (24) のような、下線部のひらがなの否定表現を読み飛ばした例である（下線は筆者）。

(23) 「タバコ臭くなく快適でした」を「タバコ臭い」と解釈。（学習者 H）

(24) 「渋滞も無く 30 分かかりませんでした。」を「渋滞で 30 分かかった」と解釈。（学習者 J）

(23) では、「快適」が中国語としては非単語なので、この学習者は「快適」がホテルに対するよい評価を表すことを知らなかった。「タバコ臭くなく」を「タバコ臭い」と解釈すると、「タバコ臭い」と「快適」という対立する評価を並列させてしまうことに気づかず、否定を表す「なく」を読み飛ばしたようである。(24) は、「渋滞」と「時間がかかる」とが意味的に結びつくのは容易で、その結果、文末の否定表現「ませんでした」を読み飛ばしたと推測される。

また、(25) は、ホテルとディズニーランド間の送迎に関する情報である（下線は筆者）。

(25) 要予約。ディズニーランドのみ停車。ディズニーシーには迎えなし。金土日祝のみ運行。

この情報について、下線部「のみ」を無視して「金土日祝も送迎がある（つまり金土日以外も送迎がある）」と解釈した事例があった（学習者 J）。調査のために設定された状況では、このホテルに宿泊するのは木曜なので送迎バスは利用できない。しかし、それは正しく理解できておらず、むしろ送迎バスがあることを高く評価してホテル選びの決め手の 1 つとしていた。

通常、ディズニーランドは週末に遊びに行く人が多く、週末と平日ならば週末のほうが送迎サービスを受けられる可能性が高いだろう。このような知識を持っているかどうか、情報の読みとりに影響する。これは、次に述べる「ホテル関連の知識の不足」とも関わる。

3.3 ホテル関連の知識の不足

最後は、ホテル検索のシステム、一般的なホテルの部屋のタイプや宿泊プランについての知識がないことによる読みの困難さである。

たとえば、部屋のタイプを選択する検索条件入力画面上の選択肢「シングル ツイン ダブル」について、(26) のように考えた例があった。

(26) 「シングル」は single に音が似ているから 1 人部屋だと思う。「ツイン」はよくわからないが、普通 1 人部屋の次に来るのは 2 人部屋だろうから 2 人部屋だと思う。「ダブル」は double と音が似ているから、2 人部屋だろう。でも、それならさっき 2 人部屋だと思った「ツイン」は何だろうか？ よくわからなくなってしまった。（学習者 I）

カタカナで書かれた部屋のタイプでは、11 人中 9 人が「ツイン」に対して正しく理解できていなかった。これは、シングル、ダブルのように対応する英語がすぐには思い浮かばないことも原因の 1 つだと考えられるが、さらに「2 人部屋には 2 種類ある」という知識が不足していることも影響している。「友だちと泊まるならダブルを選ぶ」と回答した学習者は多かったが、インタビューの結果、全員がダブルルームをツインルームだと思って選んでいたことがわかった。ま

た、「ツイン」を「2人部屋」と正しく理解した2人のうちの1人は、「ダブル」に対しては「わからない」と答えている。

一方、ホテル検索方法に関わることでは次のような事例があった。

- (27) 検索画面で検索の対象のエリアを選択する際に、都道府県一覧のどこに東京があるのかわからない。「関東」の中で探すべきところを見当違いな地域(東北, 近畿)を探している。(学習者F)
- (28) ホテルからディズニーランドまでのルートを知りたいが、サイトのタグに書かれた「ルート検索」の「ルート」が読めないで、ルート検索機能がどこにあるのかわからず、知りたい情報が得られない。(学習者I)

このほか、(29) (30) のような例も、ホテルの宿泊プランについての知識がないために理解できなかった例であろう。

- (29) 「連泊プラン」と書かれたプランについて、連続して2泊以上泊まらなければならないことがわからない。(学習者F)
- (30) 「シングル2名様利用」と書かれたプランについて、シングルルームを2人で使うことに思い至らず、シングルなのになぜ2名で利用すると書かれているのかわからない。(学習者F)

なお、このようなホテル検索サイト特有の表現が理解できない場合、辞書で意味を調べようとしても辞書の見出し語がなく、意味を調べられないことが多い。この点については、「4. 補助ツール」で述べる。

4. 補助ツール

次に、補助ツールの使用について述べる。ホテル検索サイト内で補助的に使用できるツールには、地図やルート検索がある。一方、ホテル検索サイトとは別のサイトで、調査中に学習者が使用したのは、辞書サイトと、翻訳サイトであった。

学習者が調査中に実際に利用した、あるいはふだん利用していると答えた翻訳サイトは、次の2つである。URLは2014年6月現在のものである。

youdao (有道) <http://fanyi.youdao.com/>
 Google translate <http://translate.google.co.jp/>

このうち youdao (有道) は中国語系学習者の間でよく使われているサイトで、日本在住の6名中4名がふだん youdao を使っていると報告している。それに対して、アメリカ在住の学習者は、5名中3名が Google translate を使用すると答えている。

辞書サイトは、次の2つである。この2つを挙げたのは、日本在住の学習者がほとんどで、アメリカ在住の学習者が1名 youdao (有道) を使用すると報告している。

youdao (有道) <http://fanyi.youdao.com/>
 江戸小 D-日語词典 <http://dict.hjenglish.com/jp/>

辞書サイトは、パソコンで使用する学習者と、スマートフォンで使用する学習者がいた。パソコンで使用する場合は、意味を調べたい表現をホテル検索サイトから辞書サイトに簡単にコピーできるが、スマートフォンで使用する場合は、自分の手で文字入力する必要がある。

学習者の補助ツールの使用を観察し、補助ツール使用の難しさには次の4つがあることがうかがえた。第1に、調べたい表現が辞書に記載されていないこと、第2に、辞書に記載されている意味が必ずしも正しくないこと、第3に、翻訳サイトの翻訳の正確さが低いこと、そして、第4に、文字入力の難しさである。

4.1 調べたい表現が辞書に記載されていない

わからない表現があったときに、辞書でその意味を調べようとしても、その表現が辞書に記載されていない場合があった。たとえば (31) (32) のような例である。

- (31) 「ユーザーレビュー」を調べたいが、youdao (有道) では「ユーザーレビュー」が見出し語になく、「ユーザー」しか調べられない。「ユーザー」の意味は「消費者」になっている。何のことかよくわからない。(学習者I)
- (32) 「貸し切り風呂」を調べたい。youdao (有道) では「貸し切り風呂」が見出し語になく、「貸し切り」だけを調べたら、「貸し切り」は「レンタル」という意味だとわかった。「風呂」の意味は元々知っていたが、結局「レンタルの風呂」とはどういうものなのかよくわからない。(学習者I)

(32) の例は、貸し切り風呂についての知識がなければ、翻訳を与えられてもわからないという「3.3 ホテル関連の知識の不足」と関わる問題である。そもそも、辞書の見出し語にない表現は、特定の領域で使用される特徴的な表現であることが多い。「ユーザーレビュー」も「貸し切り風呂」もホテル検索サイトに特徴的な表現であると言えるだろう。このような表現は、その表現を構成する語の翻訳が与えられても、全体としてそれが何を意味するかがわからないことがある。

また、ホテルの宿泊プランを閲覧していた学習者に (33) のような例があった。

- (33) 宿泊プラン名についている「るるぶトラベル」「ベストリザーブ」というマークの意味の違いを知りたい。「るるぶ」を辞書で調べたが、「るるぶ」は辞書には載っていなかったため、結局「るるぶトラベル」が何かわからなかった。(学習者F)

「るるぶトラベル」は、Yahoo! トラベル同様の旅行予約サイトで、もちろん「るるぶ」は辞書には掲載されていない。ただし、この場合は、「るるぶ」の意味をどうやって調べるかよりも、むしろ「るるぶトラベル」「ベストリザーブ」が辞書で調べる必要がある表現なのかどうかについて、予測できることが重要ではないだろうか。サイトのレイアウトや字体などから、辞書で調

べるべきかどうかの判断ができることも、効率的に情報をとるために必要な能力である。

4.2 辞書に記載されている意味が正しくない

辞書に掲載されていても、その意味が誤っている事例があった。辞書サイトを使用する学習者たちは、「使っている辞書サイトには間違いが多い」と割り切った上で使用している。(34)の例のように、明らかに文脈に合わなければ誤訳と判断し、辞書サイトの情報を無視していた。

- (34) 部屋タイプの選択肢の中の「ペンション」の意味を youdao (有道) で調べたところ、「国際会議」となっていた。(学習者 J)

しかし、誤った情報でも (34) の例ほど文脈から大きくずれていないため誤訳と気づかない事例(35)(36)や、不適切な訳であることがわからず読むことをあきらめてしまう事例(37)もあった。

- (35) ホテル内のレストラン情報に「料理種類：バイキング」とあった。youdao (有道) で「バイキング」を調べたところ、最初に出てきた意味「朝食」で納得した。(学習者 I)
- (36) ユーザーレビュー中の「ツインルーム」を youdao (有道) で調べたところ、出てきた意味は「部屋 / 朝食付き / 喫煙可」であった。そのため「食事の意味ですかね」と、誤った理解のまままで読み進めた。(学習者 K)
- (37) 「フロントの人が無愛想」というレビューに対して、youdao (有道) で「フロント」を調べたところ、最初に出てくる意味が「正面」「前面」だった。そのため「フロントの人」を「前の人」と解釈し、文の意味がわからなかった。(学習者 K)

なお、(34) から (37) の例は、いずれもホテル関連の用語であり、学習者のホテル関連の表現の知識が不足していることと、それを調べることが容易ではないことを示す事例である。(31) から (37) の事例を見ると、わからない表現があっても辞書を調べれば読める、という考えが不適切であることがわかる。

4.3 翻訳サイトの翻訳の正確さが低い

翻訳サイトも積極的に使用されていた。辞書サイト同様に、間違いが多いことを了解した上での使用である。翻訳を使用する頻度が高かったのは、ユーザーレビューである。たとえば (38) はユーザーレビューの一部と、それを学習者 I が youdao (有道) を使って全文翻訳した結果である。

- (38) この値段でこのサービスといった感じでした。二連泊しましたが、清掃はあまり満足するものでもなく、不快に感じました。

这一价格这一服务等。三个人很清洁太满意的，不真实感。

(38) の翻訳結果は中国語としてまったく意味を成しておらず、学習者 I は「この中国語はおかしい。まったく意味がわからない」と答えている。学習者 I は、このように翻訳結果の意味がまったくわからない場合の自分なりの対処方法を持っていた。まず、このような場合、文を短く

切って少しずつ翻訳するとのことで、(38)の結果を見たあと、(39)のように短く切って翻訳をしておしていた。各文の翻訳結果も併せて [] 内に示す。

- (39) ・二連泊しましたが、[三個人很]
 ・清掃はあまり満足するものでもなく、[清扫太满意的]
 ・不快に感じました。[不真实感]

(39)の中国語訳もまったく不正確で、文を短く区切って翻訳しなおしたにもかかわらず、翻訳結果が(38)とほとんど変わらない。1文目は意味を成さず、2文目については、「清掃は大変満足した」という逆の意味に翻訳されている。3文目は「真実感がない／ではない」となるが、「真実感」という単語は中国語にはなく、その漢字から意味を推し量ろうとしても、少なくとも「不快」の意味は表さない。実際のところ、youdao(有道)に限らず一般的に翻訳サイトは翻訳の正確さが低く、翻訳結果をそのまま利用できないのが現状のようである(杉浦2009, 荻野2009等)。

学習者Iは、(39)の翻訳結果に対して(40)のように対応している。学習者の対応を()内に示す。

- (40) ・二連泊しましたが、(読み飛ばす)
 ・清掃はあまり満足するものでもなく、(「掃除はあまり満足しなかった」と解釈)
 ・不快に感じました。(「感じはよくなかった」と解釈)

1文目は読み飛ばしているが、2文目、3文目は正しく理解している。つまり、誤った翻訳結果と原文とを見比べて、どのように解釈するのがよいかを自身で判断しているのである。

翻訳の正確さが低いことがわかっているのに、最初から翻訳サイトを使用する理由について、学習者Iは(41)のように説明している。

- (41) まずは全文翻訳をして、意味が通らないところがあったら本文を自分の目で見ると。ホテル検索をするためにサイトを読むという行為は、語学学習が目的ではないのだから、翻訳サイトなどのツールをはじめから使う。

つまり、外国語で情報をとることとその外国語を学ぶことは別で、あくまでも情報を得るためには、便利なツールは積極的に使用するという考えである。荻野(2009)は、「私的な場で機械翻訳は『ざっと読み』として普及している」と指摘し、「母語以外の知識がほとんどないインターネットユーザが、自分の知らない言語のウェブページの内容をざっと掴むには、機械翻訳は非常によいツールとなる」と述べている。日本語の知識がまだ不十分な初級学習者にとって、翻訳サイトを積極的に使って「ざっと読み」をすることは、効率的に情報を得るために有効であろう。ただし、「ホテルを選ぶ」のように目的が明確な場合、部屋の清潔さや防音など個々の読み手が必要とする情報は決まっており、それらの情報については正確に読みとる必要がある。そのため、学習者Iのように、補助ツールの不備に対処する方略があり、適切に情報の取捨選択ができるだけの語彙や文法の知識があることが、補助ツールを使用する上で重要である。

4.4 文字入力難しさ

最後は文字入力の問題である。サイトから直接コピーできず、調べたい表現をローマ字入力しなければならない場合に生じる。これは、スマートフォンの辞書を使っている場合がほとんどである。本調査では、その他に、Yahoo! 地図でホテルからディズニーランドまでの距離やルートを知ろうとしたときに、ローマ字入力しなければならなかった事例があった。目的地の欄に記入すべき「ディズニーランド」が、そのときに見ていたウェブ画面上になく、コピーできなかったからである。

(42)にその過程を示す。入力完了までにかなり時間がかかっている。ここで問題になったのは、「ディ」の入力である。

- (42) 1. 「ディ」をローマ字入力するには“dhi”とタイプしなければならないことを知らず、“di”と入力するので何度やっても「ぢ」としか書けない。
2. 日本語のローマ字入力をあきらめ、youdao (有道) で英語の“Disneyland”の中国語訳「迪斯尼乐园」を探す。
3. 「迪斯尼乐园」を中日翻訳サイトにコピーして、カタカナの「ディズニーランド」にたどりつく。(学習者I)

ローマ字入力の場合、「di」を“ディ”として使用するほうが、英語のつづりと読みとの関係に近く、日本語学習者には分かりやすい(諏訪・高橋・黒岩・小高・小倉 2006)という指摘がある。この学習者が、「ディ」を入力しようとして迷わず“di”とタイプしたのもそのためであろう。ホテル検索サイトはカタカナ表現が使われることが多いので、「ディ」以外にも「ティ」「ウォ」などローマ字入力が困難な表現を、タイプして入力しなければならない可能性は高いはずである。

5. 本研究のまとめ

本研究では、中国語系初級学習者にホテル検索サイトを読んでもらい、その読解過程について学習者自身の報告とインタビューによって調査した。その結果、学習者にとってどのような難しさがあるのかが明らかになった。具体的には(43)から(45)のようなものである。

- (43) 中国語系初級学習者は、カタカナ表現の意味を理解することが困難で、ホテル検索サイトで使用頻度が高い「ツイン」「フロント」などの意味がわからない者も多い。
- (44) 中国語系初級学習者は、漢字に頼りひらがな部分を軽視しがちで、文末の否定表現や助詞を読み飛ばした結果、意味を正しく理解できないことが多い。また、漢字だけを捨てて意味を無理につなぎ合わせようとして、本来の意味からまったくかけ離れた解釈をすることもある。
- (45) ホテル検索やホテル関連の知識が不足しているために、「貸し切り風呂」のようなホテル検索サイトに特徴的な表現の意味が理解できないことが多い。さらに、そのような表現は辞書に記載されておらず意味が調べられないことがある。

これらをふまえて、ホテル検索サイトが読めるようになるために、どのような知識と技術が必要かについて述べる。まず(43)から考えられるのは、ホテル検索サイトで出現頻度が高いカタカナ表現である。前述したように、ホテル検索サイトで頻度の高いカタカナ表現は、初級レベルで学習しないものがほとんどである。さらに、中国語系学習者はカタカナ表現の学習が困難であることから、ホテル検索サイトを読むために必要なカタカナ表現を抽出し、それに特化した学習が必要であろう。

もう1つ重要なのは、(45)のホテル検索方法や宿泊プラン、宿泊施設関連の表現の理解である。これらの表現の意味が理解できるかどうかは、ホテル検索方法やホテル関連の知識の有無に左右される。表現を構成する個々の単語の意味が理解できたとしても、それに関する知識がなければ、結局その表現が何を示しているのかわからないことが多い。(32)のように、「貸し切り」と「風呂」が理解できても、「風呂を貸し切る」とはどういうことかがわからなければ「貸し切り風呂」の意味はわからないといった例である。これらの表現を学ぶ上での難しさは、「学習者が理解するのが難しい表現である」ということに母語話者の教師が気づきにくいという点であろう。これに対応するには、本研究のような調査を繰り返して行い、学習者にとってわかりにくい表現を具体的に収集する必要がある。

また、(44)については、中国語系学習者によく観察される読み方であり、「ホテル検索サイト」の読みに限らない問題である。このような漢字に頼った読み方について語彙知識との関係から考えると、前述したようなホテル関連の表現の知識が増えれば、ひらがな部分を読み飛ばして読んだのでは矛盾が生じる。たとえば、(23)の例の場合、もしもホテルを評価する表現として高頻度の「快適」¹が正しく理解できれば、「タバコ臭い」との矛盾に気づく可能性が高い。既知のホテル関連の表現が増えることによって、それらの表現をつなぐ働きをするひらがな部分を重視せざるを得ないはずである。したがって、やはりホテル検索サイトに特化した表現の学習が優先課題であると言える。

一方、ウェブサイトならではの補助ツールの使用については、次のような難しさがある。

- (46) 辞書サイトで調べられない表現が多く、辞書の記載内容に不適切なものが多い。
- (47) 翻訳サイトの翻訳の正確さが低い。
- (48) 辞書を使う場合に、キーボードを使ったローマ字入力が必要な場合があるが、「ディ」「ティ」のような特殊なカタカナ表記は入力が難しい。

(46) (47) からは、補助ツールを使用して得られた情報を適切に取捨選択する技術が必要であることがわかる。しかし、そのように適切に情報を取捨選択するためには、語彙や文法の知識が必要で、特に(43)と(45)で述べたように、ホテル検索領域に関連する表現の知識が必要であ

¹ 本調査で使用した2つのホテルのユーザーレビュー合計95件のうち、ホテルに対する評価を示す表現は、出現頻度が高い順に次のとおりである。

よい(良い)、満足、安い、便利、狭い、綺麗、清潔、助かり、嬉しい(うれしい)、広い、快適、親切、残念

る。また、(48)からは、読むために必要な技術として、ローマ字による文字入力という書く技術が必要であることがわかる。このように、「読む」ために文字入力の技術が必要なのは、ホテル検索サイトを利用する際に、与えられた情報を読むだけでなく、読む過程で必要に応じて情報を検索する必要があるからであろう。今後、ウェブサイトから情報をとる機会がますます増えていくことを考えると、適切に文字を入力する技術の習得は不可欠である。

6. 本研究の位置づけ

本研究は、中国語系初級学習者が日本語で書かれた文章を読むとき、どのような点が難しく、どのような所で適切とは言えない解釈をするのかを明らかにする研究の1つとして位置づけることができる。

本研究の大きな特色は、2つある。第1は、読解の対象として、ホテル検索サイトを使用したことである。

日本語学習者の読解については、Horiba (1996) や館岡 (1996)、森 (2000) をはじめ、すでにさまざまな研究が蓄積されている。しかし、そうした研究は、説明文や評論文、物語文、論文など、専門家が書いた整った文章を紙媒体で読んでもらう調査がほとんどである。本研究では、情報検索サイトの1つであるホテル検索サイトを素材に選んでおり、そこにはユーザーレビューのように不特定多数の書き手による整っていない文章が含まれる。さらに、ホテル検索サイト上の情報は多種多様で、それらが文字のフォントやサイズ、色を変えて書かれ、配置のレイアウトもさまざまである点で、いわゆる論説文や評論文とはスタイルがまったく異なる。それに加えて、翻訳サイトや辞書サイトなどの補助ツールの使用が容易である点も特徴的である。

補助ツールの使用については、副田・平塚 (2011) が、非漢字系初級日本語学習者を対象に翻訳ツールの使用過程について分析し、翻訳結果が不適切である場合の対応について、詳細に事例報告をしている。ただし、読みとる内容はメールや映画館のサイトなど多岐に渡る。「情報を効率よく得る」ことを重視した読みの学習支援を考えるならば、本研究のように特定の領域に特化した場合の読みの困難点を抽出することが必要である。このことは、荻野 (2009) が、機械翻訳の立場から、分野に特化した日本語研究が必要であると主張していることと一致する。

第2の特色は、中国語系初級学習者を調査協力者に選んだことである。中国語系の日本語学習者を対象とした読解研究では、中級以降の学習者を対象としたものがほとんどである (中西 2012, 高橋 2012, 藤井・花田・藤原・野田 2012 等)。本研究では、日本語の文法や語彙の知識が不十分な初級学習者を対象とし、母語の漢字の知識を生かして、^{なま}生の素材からどの程度正しく情報を得られるのかについて観察した。

調査終了後に、調査の中で行った情報の読みとりについて、「どのくらい読めたと思うか」と質問したところ、初級前半レベルの学習者5名のうち4名が「ホテルを決めるのに必要な情報は理解できた」、2名が「予想していたくらい読めた」と回答している (複数回答)。初級後半レベルの学習者6名は全員「予想以上に読めた」と回答しており、全員が自分自身の読みについて肯定的な評価をしている。最終的にどちらかのホテルを選んだ理由を聞いたところ、それらはいず

れも合理的であり、ホテル検索サイトに記載されているホテル情報から大きくはずれたものはほとんどなかった。ただし、誤った読み方をしていることに気づいていない事例、たとえば(25)の送迎バスの情報のようにホテル選びに影響する読み誤りもあった。このような、読み誤りやすい注意すべき点を重視した学習が可能になれば、効率的に正しく情報を読みとれるようになるのではないだろうか。

このことから、これまで初級学習者にとっては難しいと考えられ、教材化されることがほとんどなかった^{なま}生の素材が、漢字の知識のある中国語系学習者にとっては有用な教材になることが明らかである。本研究の結果から考えれば、中国語系学習者は、日本語のホテル検索サイトから情報を読みとる学習を、遅くとも初級後半レベルから始めることが可能である。

7. 今後の課題

本研究の今後の課題は、次の(49)や(50)のようなことである。

- (49) 旅行の時期と場所だけを指定して、多数のホテルの中から自分でホテルを選ぶ過程を調査する。
- (50) さらに日本語能力が高い中国語系日本語学習者に、ホテル検索サイトを読んでもらう調査を行う。

このうち(49)は、次のようなことである。今回の調査では、調査者があらかじめ2つのホテルを選択し、その2つのうちどちらのホテルがいいかを決めるために、ホテルの情報を読んでもらった。今後は、旅行の時期と場所だけを指定して、学習者にはホテルの候補を選ぶところから始めてもらう。現実のホテル検索により近い状況で調査を行うことによって、新たな困難点が抽出できるはずである。

次に、(50)は次のようなことである。今回の調査対象者は初級学習者のみであった。桑原(2012)では、初級から上級までの非漢字系日本語学習者を対象に、グルメサイトのクチコミを読む際の困難点調査を行い、上級学習者であっても「イマイチ」「がつつり」のようなレストランのクチコミに特徴的な表現の理解が難しいことを明らかにしている。したがって、さらに日本語能力が高い学習者を対象に調査を行うことにより、中級、上級学習者にとっても難しい表現は何かを明らかにできる。また、中・上級になっても見落とされがちで、かつ情報を正確に得るために重要な助詞や活用語尾にはどのようなものがあるかについてもデータを収集することが可能である。

今後、ここで挙げた(49)(50)のような調査を進めていけば、「日本語学習者が情報検索サイトをどう読むか」ということがさらに多角的に明らかになっていくはずである。そして、その結果を生かせば、学習者にとって役に立つ、情報検索サイトを読めるようになるための教材の作成が可能になる。

参考文献

- 藤井明子・花田敦子・藤原深雪・野田尚史 (2012) 「上級日本語学習者の読み誤り—学習者は学術論文をどこで読み誤るか—」『2012年度日本語教育学会春季大会予稿集』151-156.
- Horiba, Yukie (1996) Comprehension process in L2 reading. *Studies in Second Language Acquisition* 18: 433-473.
- 陣内正敬 (2008) 「日本語学習者のカタカナ語意識とカタカナ語教育 (言語教育)」『言語と文化= 語言与文化』11: 47-60.
- 桑原陽子 (2012) 「グルメサイトのクチコミの読解困難点調査」, パネルセッション「文章表現の分析と学習者の読解困難点調査に基づく読解教材の作成—グルメサイトのクチコミを読む教材を例にして—」(野田尚史・桑原陽子・播磨涼子)『日本語教育国際研究大会予稿集第2分冊』23-29.
- 森雅子 (2000) 「母国語および外国語としての日本語テキストの読解—Think-aloud法による3つのケース・スタディー—」『日本語教育論集 世界の日本語教育』10: 57-72.
- 中西泰洋 (2012) 「中国語を母語とする日本語学習者の読解教育を考える」『神戸大学留学生センター紀要』16: 37-47.
- 荻野紫穂 (2009) 「日本語研究と機械翻訳」『日本語学』28(12): 72-80.
- 副田恵理子・平塚真里 (2011) 「日本語理解を支援する外的リソースの使用実態調査—初級学習者の翻訳ツールの使用過程に焦点をあてて—」『北海道大学留学生センター紀要』15: 1-19.
- 杉浦滋子 (2009) 「無料翻訳ソフトの翻訳能力の現実」『日本語学』28(12): 4-13.
- 諏訪いずみ・高橋勇・黒岩丈介・小高知宏・小倉久和 (2006) 「日本語学習者のカタカナ語理解を支援する英単語検索システムの検討 (教育工学)」『電子情報通信学会論文誌』J89-D(4): 797-806.
- 高橋亜紀子 (2012) 「上級中国人日本語学習者の読解の問題点—再話・筆記再生タスクの分析を通して—」『宮城教育大学紀要』47: 357-371.
- 田辺洋二 (1990) 「和製英語の形態分類」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』2: 1-16.
- 館岡洋子 (1996) 「文章構造の違いが読解に及ぼす影響—英語母語話者による日本語評論文の読解—」『日本語教育』88: 74-90.

Difficulties in Reading a Hotel Search Site for Chinese Learners of Elementary Japanese

KUWABARA Yoko^a YAMAGUCHI Mika^b

^a University of Fukui / Project Collaborator, NINJAL

^b Emory University

Abstract

The purpose of this study was to investigate how Chinese learners of Japanese used a hotel search site, including the reading process needed to navigate and use the site, and the comprehension difficulties that arise. Eleven Chinese learners of elementary Japanese participated in this research. They read information on two hotel websites and reported on their reading process.

The results showed the following:

- (i) For Chinese learners of elementary Japanese, high-frequency *katakana* words on the hotel search site, such as “ツイン (twin room)” and “フロント (front desk),” and words that are characteristic of hotel search sites, such as “貸し切り風呂 (reserved bath)” were difficult to understand.
- (ii) The Chinese learners tended to rely too much on *kanji* and ignore phrases written in *hiragana*, such as inflected suffix endings and grammatical particles, so they were not able to understand the meaning. Furthermore, sometimes they tended to process the meaning of *kanji* only and interpret with the wrong meaning.
- (iii) Chinese learners of elementary Japanese tried to use supplementary tools, such as translation and dictionary websites. However, these sites contain a lot of incorrect information. Learners need skills to effectively use the results of translation and dictionary sites.

Key words: Chinese learners of elementary Japanese, hotel search site, reading, *katakana* words, supplementary tool